令和８年度　第３回平田地域協議会会議録（要約）

日　　時　　令和８年１０月８日（木）午後１時３０分～午後３時４５分

場　　所　　平田総合支所　３０２号室

出席委員　　９名
１号委員　長堀　恵理　佐藤　美恵　小野寺孝延　石黒　初枝
丸山　清　　山口　貴明
２号委員　石黒　由香　新楯　康　　阿部　和葉

欠席委員　　６名
１号委員　田中井広志　阿部　太郎　佐藤　善仁　久松　信子
２号委員　佐藤　正一　久松　由華

酒田市出席者　　平田総合支所長　　渋谷　　寛
平田総合支所長補佐　　鈴木　　亨

傍 聴 者　　なし

議事日程　　１．開　会
２．あいさつ
３．会議録署名委員の選任
４．講演
講師　酒田市地域プロデューサー　大谷　謙治氏
５．協議
（１）地域振興について（意見交換）
２班に分かれてワークショップ形式による話し合い
６．その他
７．閉　会

【協議会の概要】
大谷地域プロデューサー講演後、「平田地域の地域振興」をテーマにした意見交換をワークショップ形式で行った。ワークショップ後、大谷氏からも意見をいただき、出された内容を基に次回今年度のまとめを行うこととした。

【会議録（要約）】

1．開会

▶事務局より開会と欠席委員6名の報告

2．あいさつ

▶石黒由香会長あいさつ

▶渋谷支所長あいさつ

3．会議録署名委員の選任

▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、山口貴明委員を指名した。

4．講演

講師　酒田市地域プロデューサー　大谷　謙治氏

▶講演内容要約

1.地域プロデューサー役割の変遷:

○当初は川南地区の学校統合を円滑に進めるため、市長公室の「地域プロデューサー」として活動を開始。

○現在は教育委員会教育総務課に籍を置き、旧3町地区や26地区のコミセン、小中学校を巡りながら、地域課題のヒアリングや行政とのパイプ役を担っている。

2.酒田型スクールコミュニティの推進:

○中学校区を1つのエリアとして、学校・地域・企業・福祉団体などが一体となり、地域づくりを推進。

○地域の子ども（中学生など）を単なる客扱いではなく、企画の段階から地域活動の一員として巻き込み、次世代の担い手を育てる。

3.人口減少の現状と構造

全国および酒田市の状況:

○日本全体の人口減少に加え、酒田市では「社会動態（転入出の差)」よりも、出生者数と死亡者数の大きな乖離による「自然動態（人口自然減)」が深刻。

○人口ピラミッドが変化し、将来的に老齢人口の割合がさらに高まることが確実視されている。

○平田地域の現状:

・70代をピークに高齢化が進み、合併前からの20年間で約2,000人近く人口が減少。

・かつての「分館」を中心とした先駆的な小規模コミュニティの歴史があるが、現在の行政バランスや集約化の中で組織の再編が進んでいる。

4.地域づくりにおける「協働」の重要性

○「支援」「連携」「協働」の違い:

・単なるお手伝い（支援）や一緒に進める（連携）のではなく、それぞれが得意分野を活かして役割分担し、共通の目標に向かうこと（協働）が不可欠。

○自分事としての地域活動:

・すべてを行政任せにするのではなく、防災や地域課題に対して住民一人ひとりが「自分事」として考え、対話を重ねることが重要。

5.地域協議会ワークショップテーマへの助言

○有害鳥獣対策:

・3月に発足した「酒田市鳥獣被害対策協議会」を窓口にすることで、電気柵の広域設置やジビエ工場などの対策に対して最大2分の1の国庫補助を受けることが可能。

○人材不足・移動支援:

・集落支援員や地域おこし協力隊といった国の制度、住民による「お助け隊」などを積極的に活用していく。

○交流人口・経済活性化:

・「田園都市の子ども」などの受入教育、クルーズ船や台湾チャーター機などのインバウンドを捉えた酒田のPR・関係人口の拡大。

5.協議

（1）地域振興について（意見交換）

▶鈴木支所長補佐が地域振興についての意見交換の進め方について説明。その後、出席委員が2班に分かれて意見交換を行った。最後に各班で出された意見のまとめを発表。会長、副会長と協議の上、次回の地域協議会で最終のとりまとめを行うこととした。

【5（1）地域振興について　各班の意見】

各班のテーマに対する意見

A班　①鳥獣対策

⇒山の方にクマが出ると危機管理課、市街地に出ると環境衛生課と管轄が違う。管轄を統一してほしい。行政ではっきりと位置付けをして欲しい。ちょうど平田が酒田市の真ん中にあるので、対策本部などを置いたらどうか。

②人材不足→育成（今後の人口減少とあいまって由々しきもの）

⇒大人を教育するのは難しいので、小中学校のうちから地域との連携を密にして授業や集まりなどで地域との関わりを養っていく。旧小学校区単位のコミセンを1つにまとめるなどして活動しやすい仕組みにしたらどうか。

③観光活動の利活用（観光資源は誰が守るのか）

⇒次回検討

④人口減少と高齢者対策

⇒移動手段のないお年寄りや障がいのある方に朝だけでもスクールバスに同乗してもらうシステムを作るとか、ライドシェアを活性化などしたらどうか。

B班　①支所単位でのコミュニティ支援体制の整備

⇒支所単位でコミュニティ支援体制の仕組みを作り、地域と酒田市との推進体制を整備する。地域の会長などに集まってもらい、直接イベント企画会議をする。支所の担当者にも入ってもらってアドバイスをもらう体制作りをする。

②子供主体のイベントの開催

⇒例えば、eスポーツ大会を企画から子どもたちに参加してもらい、実行委員としてイベントを行う。また、小中学校の子どもたちと一緒に、英語でのPRショート動画（平田地域のPR動画）をSNS等で発信する。こうすることで、子どもたちが地域のことを学び、人に伝えることで大きな学びになると考える。

【大谷謙治氏からの意見に対する講評】

①鳥獣対策について

⇒昨今のクマやイノシシの出没状況を勘案すると環境衛生課、農政課、危機管理課、総合支所と対応がバラバラとなっているので、組織を一つにした「鳥獣対策室」のようなものも必要かも知れない。

②人材不足・人材育成について

⇒小中学校のうちから地域との関係を切らさないこと。中学生が地域活動やこども食堂などに関わることで、高校生になっても、大学生になっても地域とつながる。また、中学校区（総合支所）に行政経験の豊富な職員を「地域コーディネーター」として配置してほしいという地域の思いは良く理解した。総合支所に定年延長の職員も配置されているので、支所長に相談したらどうか。

③子供主体のイベントの開催について

⇒企画からイベント参加ということなので、非常に良い取り組みだと思う。今の中学生は部活動への加入率も6割程度で、以前と違い忙しくなくなった。余った時間を自宅でゲームやSNSなどをして過ごしているようだ。時間的な余裕ができた子どもたちを地域の伝統行事やイベントなどに誘ってほしい。必ずや地域の人材として活躍してくれるようになると思う。

④英語でのPRショート動画（平田地域のPR動画）について

⇒外国の方もSNS等を見て来日したりしているので、ぜひ取り組んでいただきたい。クルーズ船やチャーター便で多くの外国人観光客が来酒している。平田地

域にも多くの地域資源があるので、外国人観光客を呼びこむ観光活動に取組んでもらいたい。

6.その他

▶車賃等の支払いについて

今まで、車賃等については協議会開催ごとに支払いをしてきた。だが、口座振込手数料の高騰により、酒田市では手数料の節減に努めている。この関係から協議会第3回目と第4回目、下期の委員報酬の支払いを来年2月頃に一度で振り込ませていただきたい。

⇒委員より了承を得る

7．閉会

▶丸山清副会長閉会